

騒音・危険・資産価値低下

羽田増便による低空飛行ルートに反対する川崎区民の会ニュース

2022年7月 N0-14 代表世話人 橋孝 Tel 044-287-7313 ・ 田辺一雄 Tel 044-333-7833
橋本勝雄 E-Mail : katsuo.hashimoto@gmail.com

新飛行ルート

いま、あらためて問う

「危ない・うるさい」低空飛行が続いています。住民から不安や反対の声が広がっているのに、なぜ聞く耳をもたず強行するのか。いったい誰の「利益」を守ろうとしているのか？

国も市も「事故は起きない」。だから「対策は取らない」と言います。

しかし、「安全」を言いふらし、あの悲惨な原発事故を起こした教訓は何か。一瞬にして人命が奪われ、地域の歴史・文化が崩壊につながる危険を放置していいのだろうか。新飛行ルートの見直しを強く求めます。



『街の声』

- ◎ テレビの音が聞こえない。頭上を通ると恐怖を感じる。
- ◎ 娘2人が羽田空港へ苦情の電話を何度しても、「すみません」というけど、何も変わらない。
- ◎ ベランダに出ると、どこの航空会社の飛行機かわかるほど低く飛んでいて、大きく見える。
- ◎ うるさくてしかたない。暑くても窓を開けられない。クーラーの電気料金があがっている。返してほしい。
- ◎ どうして市長は、国に「飛んでいい」と言ったのか全くわからない。日本は、人が死なないと手をうたない。でも、川崎区はコンビナートがあるから特別危険だ！ということも、市も国も、分からないはずがない。



川崎母親大会で発言



6月19日 10:00～サンピアンかわさき大ホールで開催されました。活動報告の舞台上で羽田新飛行ルート問題の内容を発言しました。

私は、『川崎市子ども権利条例』に照らして、新飛行ルートは許されるのか、と陳情書を市に提出し、現在継続審査となっています。きょうは子どもたちの将来について考えたいと発言します。

‘20年3月29日から、南風の時、午後3時～7時迄、2～3分置きに飛行。航路下には殿町小学校・子ども文化センター・乳児園・保育園・幼稚園等子どもの施設が沢山ある上を機体のマークが見える程低く飛びます。「保育園児が飛行機の轟音や振動、機体の威圧感にびっくりして泣きながら保育士にしがみ付き、対応に困った」と言います。

現在高校生になっていますが高校受験時新飛行ルートが自宅上空で騒音に悩まされて、改善を「市長への手紙」として出しましたが何ら誠意のある返事は無く国の言いなりの回答で落胆したと。

『子どもの権利条例』は、「安心して生きる権利」が保障されること、子どもの「命が守られ尊重されること」、「平和と安全な環境の下で生活できること」とあります。

北海道大学の松井教授は、「成人より乳児や子どもは脳への悪影響をうけやすく、成長ホルモンの低下を危惧」しています。いのち最優先の街をご一緒につくっていきましょう。

(山田 美枝子)

生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのみます
第63回
川崎母親大会
2022年
6月19日 10:00～16:10
(9:30開場)
サンピアンかわさき大ホール
〒213-8501 川崎市川崎区サンピアタウン1-1-1
資料代 800円 (11歳未満の子どもの参加は無料です)

上映 10:00～12:00
『果実の放浪記』
『分科会報告、運動の発言交流』

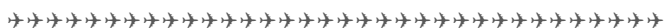
分科会 10:00～12:00
『平和な世界を手選そう！～地球はみんなの故郷だから～』
『低空飛行ルートは変えられる第3回会議』

全体会 13:10～16:10
『分科会報告、運動の発言交流』



拡大世話人会の学習会

脱「炭素」時代に向けて 『臨海部を中心とした川崎区』



5月・6月の学習会は「コンビナートの歴史」について、7月はコンビナートの将来はどうなるのか『脱「炭素」時代の臨海部を中心とした川崎区』をテーマで片柳進市議を招いて学習しました。

川崎市の「臨海部ビジョン」(構想)—30年後の将来イメージを見ると、羽田増便による「新飛行ルート」などが前提になっています。市の温暖化対策や「コンビナート・エネルギー」計画について考えてみました。

地球の未来がかかった気候危機の事態にCO₂(二酸化炭素)削減へ思い切った対応が求められます。国連 IPCC 報告では2030年までに温室効果ガス(大半はCO₂)の45%削減(2010年比)、50年までに実質ゼロを達成しないと、世界の気温上昇を1.5度以内に抑え込めないと警告。洪水のリスク、食糧生産など地球と人類にとっても甚大な打撃となります。

川崎市は政令市最大のCO₂排出地域です。市の基本計画で30年度までに「50%削減(13年度比)」する目標です。川崎のCO₂排出量の75%は臨海部であり、電力、鉄鋼、石油関連企業など大規模事業所

が主なもので、産業系が占める排出量の割合は全国48%に対し、川崎は77%と極めて高いものになっています。大規模事業所とCO₂削減目標や計画などの協定を結ぶべきです。民間任せでは市の責任は果たせません。

参加者から「新飛行ルートは限られた地域住民の問題ではなく、国や市のめざす大企業の利益優先の将来ビジョンの是非を問う大きな問題だ！それにふさわしい運動が求められている」という感想もありました。

7月16日(土)

【JR川崎駅前宣伝】

7月16日、「羽田増便による低空飛行ルートに反対する川崎区民の会」は、定例の川崎駅前宣伝を実施しました。東京で運動している「羽田増便を考える会」から渋谷区の須永さんが応援に来てくださり東京での活動を報告して頂きました。

大田区から2名の方が参加し、「騒音被害と落下物の危険、川崎石油コンビナートで大規模災害が発生した場合は大田区にも被害が広がるのが危惧される」と訴えました。畑野君枝さん(前衆院議員)も明快なスピーチで通行人を引き付けました。



《 8・9月行動計画 》

- ☆ JR川崎駅東口宣伝
 - 8月13日(土) 14時~15時
 - 9月17日(土) 14時~15時
- ☆ 拡大世話会
 - 教育文化会館 第5学習室(5F)
 - 8月26日(金) 15時~16:30
- ☆ シマホ前
 - 8月11日(木) 15時~16時
- ☆ 京浜急行川崎大師駅前
 - 8月27日(土) 14時~15時
 - 9月24日(土) 14時~15時

ご購入ください。

『危険な新飛行経路は中止を』

「川崎区民の会」編集・発行
頒価 500円

羽田新飛行ルート反対の「区民の会」のこれまでのとりくみを23ページの冊子にまとめました。羽田離陸ルートの危険性が詳しく記述されています。ぜひ、ご一読ください。

